

氏名：山本彩乃

留学先：ハンブルク大学

11月のハンブルクはコートやマフラーを欠かすことができないような寒さになってきています。寒くなってくると、私の場合常に鼻をすすってしまう時期があるのですが、ドイツでは鼻をすする音は不快と感じられてしまうらしいので、注意したいと思っています。今回の報告書では、学習面の話と、移動遊園地について、またドイツの歯医者に行ったことについて書いていきたいと思います。

● 学習面

私は5つのドイツ語の授業、不定期で行われる日本度学科の日本語の授業の、日本語サポーターとしての参加、また4人のハンブルク大学生とのタンデムを行っております。

ドイツ語の授業は、授業開始前にプレメンステストが行われ、そのテストの結果を目安に、自分のレベルにあったドイツ語の授業を選択し、受講しま

す。授業では様々な国籍、年代の方々と一緒に受けることができるので、慣れないうちはどの授業も新鮮に感じました。

日本語サポーターとして参加している授業では、ハンブルク大学生とグループをつくり、出されているテーマについてディスカッションをしたり、漢字やひらがなの練習しているのを見て、間違っていていないかどうかを確認したりしています。ディスカッションをするのは所謂2年生以上の学生、漢字やひらがな練習は1年生の授業です。ディスカッションではお祭りやロボットについて、上級生になると留学についてや



障害者についてなど少し難しいテーマについて話します。

タンデムとは、語学を学ぶ人同士の語学交換です。例えばドイツ語が話せて、日本語を学びたい人と、日本語が話せて、ドイツ語を学びたい人がお互いの学びたい言語について質問しあったり、会話の練習をしたりなどの活動をします。タンデムパートナーは、例えば上記した日本語サポーターとして出た授業で知り合ったり、友人から紹介して貰ったり、掲示板に連絡先を貼ったりなどして探していきます。現地に住んでいる学生だからこそ知っている情報を教えてもらったり、お互いの文化について教えあったりします。気軽にお互いに興味のあることを、学習中の語学で一生懸命伝えあえるので、とても会話の勉強になります。

● 移動遊園地 Hamburger Dom

ハンブルクでは春・夏・冬に移動遊園地がやってきます。今年の冬の Dom は11月3日から12月3日まで行われていました。私は日本学科の学生と、日本留学生と共に行きました。Dom は入場自体は無料です。アトラクションなどをする都度、料金を支払います。私はアトラクションには乗らず、遊園地の雰囲気や、冬の Dom で好んで飲まれている Glühwein(グリューワイン)を飲んだり、甘いお菓子を食ったりして楽しみました。



この日の夜はとっても寒かったので、Glühwein がとっても体にしみました。



⇐

Dom にはこのようなピカピカして、大きくて、デンジャラスなアトラクションがたくさんあります。例えばこのアトラクションは、機体が斜めに傾いて、とても早く回ります。それに加えて、座席一つ一つも個々に回ります。

● 歯医者に行きました

ある日、何の前触れもなく、口の中が痛くなり、咀嚼が出来なくなりました。突然の痛みに不安に思った私は、直ぐに歯医者に電話をし、予約しました。なんと幸運なことに、ハンブルクの北西に位置する小さな町レリングゲン (Rellingen) には無料で日本語通訳をしてくれる歯医者さんがいます。電話予約も日本語で行えるので、かなり安心して予約できます。レリングゲンまでは、学校から貰っている HVV の定期券で行ける範囲なので、無料で行けます。また、診断もドイツに来て早々に入った国民健康保険内なので、無料で受けることができました。歯医者に行くと、受付にはかなり日本語が堪能な方がいらっしゃり、受付から、診断中の意思疎通まですべてサポートしていただけます。また歯科医師さん自身も少しだけ日本語ができるようでした。診断の結果、私の口の中の痛みは、虫歯や、親知らず等が問題ではなく、ストレスによる激しい歯ぎしりが問題だったようです。虫歯や親知らずなど今後治療が続くものではなかったことにほっとしましたが、体に現れるほど、自分にストレスが溜まっていつていることに驚きました。折角の留学生活なので、様々なことにチャレンジしていきたいと思っていますが、あまり根を詰め過ぎずに、自身のできる範囲のペースでやっていこうと思いました。

12 月はクリスマスマーケットなど、イベントが沢山ある時期です。留学期間中で、一番町が賑わっている時期だと思うので、この季節を存分に楽しんでいきたいと思っています。